令和４年度(2022年度)第１回　豊中市保健医療審議会　議事録

１. 日　時　　令和４年７月26日(火)14時00分～15時30分

２. 場　所　　ZOOMによるオンライン会議

３. 案　件

(1)保健所各課　R3年度事業実施報告とR4年度事業実施予定

(2)食育推進部会　報告

(3)健康づくり・食育計画に関するアンケートの実施　報告

４. 出席者（敬称略）

（1）委員（名簿順）　：11名

委　員	横山　美江	（大阪公立大学）
	内藤　義彦	（武庫川女子大学）
	林　　宏一	（武庫川女子大学）
	岡本　千加	（(一社）大阪府助産師会）
	飯尾　雅彦	（(一社）豊中市医師会）
	近藤　篤	（(一社）豊中市歯科医師会）
	芦田　康宏	（(一社）豊中市薬剤師会）
	今井　誠	（(社福）豊中市社会福祉協議会）
	坂本　勇二郎	（豊中市病院連絡協議会）
	山西　洋一	（豊中商工会議所）
	上山　真紀	（市民委員）

（2）傍聴者：０名

議事概要

○開会　１４時００分

■審議会の成立要件の確認
　委員数 12 名のうち、11 名出席により成立。

■案件（１）　R3 年度事業実施報告と R4 年度事業実施予定
【事務局から各事業について、資料 1 を用いて説明。】
【質疑応答】14：35～

委員	けんしん事業を完全個別化・無料化したことにより、受診率はどの程度上がったのか。
事務局	がん検診のうち、特に肺がん検診については、これまで集団検診のみであったが全て個別検診にしたので、受診率が大きく上昇した。 特定健診においても受診控えがあったこともあり、令和 2 年度に比べて令和 3 年度はどの健診も受診率は高くなっている。ただ、令和元年度と比較すると微増～同程度である。
委員	全般的に数値をご報告いただいたが、普段からこのような数値データ等に接することがないので、判断が難しい。高齢者インフルエンザ接種無料化やアスマイルなどについても報告いただいたが、同様に判断が難しい。 コロナ後遺症実態把握に関するアンケートも実施するとのことだが、市として行うことに意味があるのか。
事務局	コロナ後遺症の大規模調査は、全国でも実施されていない。大学・自治体単位の小規模な調査は実施されているが、後遺症の全容把握ができていない現状の中、豊中市が今回実施する大規模なアンケート調査は全国初であり、結果についても注目されている。
委員	全国初ということであるが、この貴重なデータをどのようにストックし、施策に活かしていくのか。
事務局	今回の調査で特徴的なところとして、調査方法が紙とアプリ併用という点である。紙でのアンケートは 1 回限りであるが、アプリでのアンケートは症状が続いている間は定期的に調査を続けることから、後遺症の症状別

	の持続期間などもわかる可能性がある。
事務局	今回、大阪大学医学部附属病院　感染制御学の忽那教授に関わっていただき、データをアプリで集めることで、アンケート参加者にも、同様の症状を持つ方の情報や、医療機関などの情報を適宜フィードバックすることを考えている。 大阪大学により、学術論文として公表もしていただく予定で、収集した貴重なデータを豊中市民、ひいては全国の方に活用していただけるものとする予定である。
委員	集めたデータはフィードバックされていないと次に使えないのでよろしくお願いします。
会長	全国的に出生率が低下しているが、豊中市は出生率を上げるための取り組みを何か考えているのか。
事務局	出生率に関しては、大阪府内の他自治体は少子化が進み、下がっている傾向にある中、豊中市は横ばいの状況となっている。 要因としては、母子保健分野だけではなく、住環境や交通利便性、子育て支援の充実などの理由で転入される方が多いこともある。 こども未来部所管の児童福祉分野でも国の少子化対策を受け、市としても力を入れて様々な取り組みを行っている。 母子保健・児童福祉の両輪で育児支援を行っていこうと考えている。
会長	コロナの影響もあり、保健医療の分野だけでは解決しない課題もあると思うので、他部署と連携した展開が必要である。
委員	ICT を活用した保健施策の導入が進んでいるが、健康相談に関してはどのように推進しているのか。オンライン実施により、相談件数は増えているのか。
事務局	母子保健分野でオンライン相談を行っている。子育て世帯は ICT に抵抗がない方が多いので、健康教育や両親教室などでは双方向でコミュニケーションをとったり、多人数でのグループワークを行ったりしている。健康相談では、時間予約制で歯科・栄養などの個別相談を行っている。 また、林委員にご協力いただき、食育講座の動画配信も行っている。 加えて、支援が必要な特定妊婦には LINE での相談も行っている。電話は

	使えないがLINEなら連絡可能というケースもあり、文字として記録も残るので説明も伝わり、支援に繋がりやすく、こまめに相談を行っている。 若年の未受診妊婦の方とは、当初からLINEで連絡を交換し、関係性を築いていくことが有効であると保健師からも聞いている。 今後も個人情報の取り扱いなどにも気をつけながら、有効に活用していきたい。
委員	全国的には児童虐待の相談件数は増加傾向にあるが、ICT の活用などによって、豊中市では児童虐待相談件数が低減していくのではないかと期待する。

■案件（２）　食育推進部会　報告

【部会長から、資料2を用いて説明。】

【質疑応答】14：51～

会長	今回の部会ではアンケート内容に関するディスカッションを行っていただいたが、それ以外の内容についてはどのように議論を行っていくのか。
事務局	今回は市民アンケートということでご議論いただいたが、計画の中身の議論については、まずは素案を作成し、来年度の審議会でご議論いただく流れを考えている。

■案件（３）　健康づくり・食育計画に関するアンケートの実施　報告

【事務局から、資料3を用いて説明。】

【質疑応答】15：05～

委員	小学生や中学生もアンケートの対象になっているが、世帯収入の回答も行うのか。
事務局	世帯収入の回答は保護者が行うことを想定している。
委員	80問ほど質問数があるが、回答に要する時間は何分程度と想定しているのか。

事務局	アンケートには案内文の添付を検討しており、その中でお示しする予定である。
会長	幼年期・少年期対象のアンケートに世帯収入の質問があることについて、子どもへの配慮は行っているのか。
事務局	前回のアンケートでも同じ項目はあり、回答する家庭内で配慮していただける前提で作成している。
会長	アンケートを実施する対象者 9,000 人の根拠は。
事務局	市の人口を勘案し、9,000 人のアンケートをとれば、統計上、市の状況が反映されたデータが取れるものと考えている。 回答率は 40～50％で想定している。
会長	回収率向上を考えると、学校単位で行ったほうがいいのではないかと考えるが、前回同様、無作為で行うということで理解した。

■その他

事務局	次回の審議会は 2 月頃を予定している。議題としては健康づくり・食育推進計画にかかるアンケートの結果報告を予定している。 令和 3 年度の実績数等については、今回資料にて「保健所事業概要」を添付しているので、ご確認ください。

○閉会　１５時１５分